

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23242053

研究課題名(和文) ローカル・センシティブなジェンダー地理学とグローバル・ネットワークの構築

研究課題名(英文) Constructing global networks for geography of gender with local sensitivity

研究代表者

熊谷 圭知 (Kumagai, Keichi)

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：80153344

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 20,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、欧米中心に展開してきたジェンダー地理学を再構築し、日本からの発信とグローバルなネットワーク構築をめざした。

具体的には、1)2013年8月の京都国際地理学会において、「ジェンダーと地理学」研究委員会と共同し、プレ会議(奈良)を開催。2)海外の主導的なフェミニスト地理学者(2012年1月にDivya Tolia-Kelly氏、2013年3月にDoreen Massey氏)を招聘。学会での議論の場を創出した。

研究成果は、2014年、英文報告書(Building Global Networks through Local Sensitivities)に刊行し、内外に発信した。

研究成果の概要(英文)： In this research project, we aimed to contribute for restructuring the study of geography and gender by presenting the Japanese researchers' papers on this sub-discipline and constructing global network.

We successfully made the following efforts; 1) hosting a pre-conference at Nara Women's University at the time of Kyoto International Geographical Congress in 2013, collaborating with the gender and geography commission in International Geographical Union. 2) inviting the two leading feminist geographers (Dr. Diviya Tolia-Kelly and Prof. Doreen Massey) and successfully creating the interactive space in Japanese geographers.

We published the proceedings in 2014 under the title of "Building Global Networks through Local Sensitivities" compiling Japanese geographers contribution to Kyoto and Nara conference. We are editing the special issue on gender and geography in series B (English version) of Geographical Review of Japan which should be appeared in 2016.

研究分野：社会文化地理学

キーワード：ジェンダー ローカル グローバル 場所 社会地理学 文化地理学 ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

1970年代後半以降、フェミニズム地理学が欧米で唱導され、それまでの地理学研究の男性主義的なバイアスが批判されてきた。フェミニズム地理学の議論が日本に紹介されるのは、1990年代に入ってからのものであるが、欧米のジェンダー地理学の紹介や、貴重な若手研究者の業績が重ねられているものの、そのパースペクティブは十分に展開されていない。日本の地理学界では、フェミニズム/ジェンダー地理学は、いまだ「少数派の知」であり続けている。

国際地理学会においては、「ジェンダーと地理学」の研究委員会が活発な活動を続けている。代表者の熊谷は、この委員会主催のプレ会議、本大会に何度か参加してきた。同研究委員会では、西欧諸国の女性地理学者の報告が多数を占め、男性および非西欧世界からの参加者は少なく、視点・方法が欧米中心に偏る傾向は否めなかった。こうした中で、メンバーからは2013年の京都国際地理学会での研究委員会開催への強い期待が示された。

2. 研究の目的

本研究がめざしたのは、欧米中心に展開してきたジェンダー地理学を日本におけるローカルなフィールドワークと場所論の成果を取り入れて再構築し、日本からの発信とグローバルなネットワーク構築を実現することだった。「ローカル・センシティブなジェンダー地理学」が意味するところは、次の2つである。第1に、グローバル化の進展により変容を迫られる日本の具体的な場所をフィールドにジェンダー地理学研究を行うこと、第2に、フィールドワークの成果と理論研究を結び合わせることである。

その研究成果は、2013年の京都国際地理学会において「ジェンダーと地理学」

研究委員会を主宰して提示し、西欧/非西欧の二項対立を超えたグローバルなネットワークを構築することとした。

3. 研究の方法

研究目的達成のための具体的方法は、以下のとおりである。1) 国内・海外におけるフィールドワークの実施、2) フェミニスト地理学と場所論のサーヴェイと両者の接合のための理論研究、3) 国内外の学会における研究成果の発信とネットワークの構築、4) 海外の主導的なフェミニスト地理学者の招聘と、シンポジウム・セミナーの開催、5) 京都国際地理学会(2013年8月)における「ジェンダーと地理学」研究委員会の主宰とワークショップの実施、6) 研究成果の刊行である。1) 2) については、研究分担者・協力者が参加して、毎年数回実施する研究合宿で共有することとした。

4. 研究成果

本研究では、当初の目的以上の成果が得られたと考える。その詳細は、以下のとおりである。

1) 2013年8月2-3日の京都国際地理学会のプレ大会(奈良女子大にて開催)を、連携研究者の吉田容子(奈良女子大教授)とともに主催した。2日間の会議では、海外から20名、国内から15名の参加者を得て、20本の報告(海外からの参加者12本、国内8本)が行われて、充実した議論が展開された。日本側参加者の15名のうち5名が本科研の研究代表者・分担者、4名が研究協力者・連携研究者、さらに4名が研究代表者が指導する大学院生だった。本大会においても、研究代表者の熊谷と研究分担者5名、研究代表者が指導する大学院生2名が報告を行なった。両者を合わせて、グローバルなネットワーク構築の基盤となる、実質的な

研究討論と親密な信頼関係の醸成に成功した。

- 2) 上記の成果(日本人研究者の報告論文)は、Building Global Networks through Local Sensitivities と題した英文報告書として、2014年9月に刊行した。この報告書には、プレ会議、本大会で報告した日本人研究者の11本の論文を収めたほか、2014年8月にポーランドのクラコフで開催されたジェンダーと地理学研究委員会での報告論文を加え、吉田と熊谷によるイントロダクションを付した。報告書の構成・所収論文は以下の通り。

1. Introduction (KUMAGAI, Keichi and YOSHIDA, Yoko)

Part I GENDER and PUBLIC/
PRIVATE SPACE

2. Does "Art" Recreate Place of Commons or Space of New Order:
"Bokuto-Machimise" Project and Recent Urban Rehabilitation at Inner-city Tokyo (OIKAWA Yuko)
3. Rethinking Public Gambling Space in Gender and Class Perspective: A Case of Motorboat Racing in Japan. (YORIFUJI, Akiko)
4. New Town Changing into Old Town: A Case Study of Two Major Suburban New Towns in Tokyo and Osaka. (SEKIMURA, Orie)

Part GENDER, MIGRATION and
ETHNICITY/NATIONALITY

5. Living in Japan for 20 years : The Experiences of Samoan Pioneer Wives. (KURAMITSU, Minako)
6. Meeting Prince Black Horse: Sexing Nationality and Practicing Masculinity in Shenzhen Folk Culture Village, China. (LI, May)
7. Women and Homeplace Making in a Korean Minority Community in Japan: A Case Study of Edagawa,

Tokyo. (KOH, Mirei)

Part WOMEN'S EMPOWERMENT
and SOCIO-ECONOMIC
TRANSFORMATION

8. Gender and Industrial Restructuring in the Philippines: Impact on Urban Migrant Community in Metropolitan Manil. (OTA, Makiko)
9. Emerging Layered Women's Agency and Governance in Dairy Cooperative Societies: From Multi-Scale Perspectives in Rajasthan, India. (NAKAMURA, Yukiko)
10. *Jinbun, Yuimaru, and Bu* (Wisdom, Spirit of Cooperative Efforts and Local Community): Women's Role in Okinawa's Endogenous Development after Reversion to Japanese Administration. (ARAKAKI, Minori)
11. Dwelling and Gender: Focusing on the Weaving Princess Training Programme in Japan. (KUSHIMA, Momoyo)

Part TOWARD ALTERNATIVE
GEOGRAPHIES OF GENDER

12. A Sense of the Local with Gender Sensitivity: Reflection on Place and *Fudo* (Milieu) in Japan. (KUMAGAI, Keichi)
13. Towards the Development of Geography of Gender in Japan: Advances in Research and Prospects. (YOSHIDA, Yoko, MURATA, Yohei and KAGEYAMA, Honami)

- 3) 2012年2月に Diviya Tolia Kelly 氏を招聘して、人文地理学会例会を開催した。2013年3月には、Doreen Massey 教授を招聘し、人文地理学会、日本地理学会、お茶の水女子大学でセミナー、講演を実施した。Massey 教授は、関西・東京で、それぞれ2回ずつの講演会(人文地理学会、日本地理学会)とセミナー(大阪市

立大学、お茶の水女子大学)をおこない、いずれも多数の参加者を集め(人文地理学会約 60 名、日本地理学会約 100 名、お茶の水女子大学約 40 名) アクティブなフェミニスト社会文化地理学者のプレゼンスは、日本の地理学界、特に院生を含む若手研究者たちに大きなインパクトを与えた。

- 4) 研究メンバーは、研究期間中に、海外で開催された国際地理学会の本大会とジェンダーと地理学委員会(2014年ポーランド・クラコフ、2015年モスクワ)、アメリカ地理学会(2015年シカゴ、2016年サンフランシスコ)などに積極的に参加し、報告をおこなって、グローバルなネットワークの構築をさらに進めた。
- 5) フィールドワークと理論を結びつけるという本研究会の課題は、研究合宿の中で展開された。その成果は、地理学評論Bの英文特集号として、今年度中に刊行の見通しである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

{雑誌論文}(計36件)(うち査読付き18件)

Kumagai, Keichi Floating Young Men: Globalization and the Crisis of Masculinity in Japan. *HAGAR (Studies in Culture, Policy and Identities)* 10(2):3-15. (査読有)

熊谷 圭知 (2013) 場所論再考—グローバル化時代の他者化を越えた地誌のための覚書. お茶の水地理 52: 1-10.

熊谷 圭知 (2013) かかわりとしてのフィールドワーク—パプアニューギニアでの試行錯誤的实践から. E-Journal GEO.8-1:15-33. (査読有)

熊谷 圭知 (2015) 現代日本の社会経済変化と男性/性の変容をめぐる試論—「場

所」と「ホーム」の視点から. ジェンダー研究 18: 87-98. (査読有)

大城 直樹 (2011) 場所の系譜学再考—あるいは風景の別の読み方について. 歴史地理学 54(1):30-38. (査読有)

大城 直樹 (2014) 「街歩き」の詩学に向けて 前提と文脈. 駿台史学 151: 137-146. (査読有)

Fukuda, Tamami (2014) Between Two Homes: Gentaro Tanahashi and His Thoughts and Practices concerning Kyodo (Homeland) and Katei (Family Home). *Japanese Contributions to the History of Geographical Thought* 10: 71-86. (査読有)

福田 珠己 (2014) 「自然」は自然なものか? 近年のランニングブームに関する一考察. 経済地理学年報. 60: 301-312. (査読有)

Mori, Masato (2014) The Localness, Materiality and Visuality of Landscape in Japan. 人文地理. 66: 34-47.

森 正人 (2015) 祈りの意味・物質・身体 四国遍路の政治学. 史林 98:143-171. (査読有)

Morimoto, Izumi and Prem Sagar Chapagain (2014) Entrepreneurship in the Peripheral Regions: A Case of Tourism in the Himalayan Village Manang, Nepal. *International & Regional Studies* (Meiji Gakuin University) 46: 1-18. (査読有)

森本 泉 (2015) カトマンズにおける都市空間の変容 グローバル化と創造的破壊. 広島大学現代インド研究「空間と社会」5: 1-14. (査読有)

倉光 ミナ子 (2012) サモアにおける国際移動と社会システムの関係の再考 ある既婚女性の移民経験の事例から. お茶の水地理 51: 86-99. (査読無)

Yorifuji, Akiko (2014) Rethinking Public Gambling Space in Gender and Class Perspective: A Case of Motor Boat Racing in Japan. In Kumagai and Yoshida eds. 2014. 18-21. (査読無)

関村 オリエ (2013) 大規模郊外団地における再開発とまちづくり 千里ニュータウンの事例. 群馬県立女子大学紀要

[学会発表](計56件)(うち招待4件)

熊谷 圭知 パプアニューギニアの場所と人々 1979年~2013年のフィールドワークから. 東アジア国際海港都市学術会議 2013年11月22日. 木浦国立大学.(招待講演)

Kumagai, Keichi A Sense of Local with Gender Sensitivity: Reflections on Fudo (Milieu) in Japan. IGU Kyoto Regional Conference. 2013/08/06

Kumagai, K., Nakamura, Y. and Oda, T. Fieldwork practice and commitment at tsunami-hit area: Ochanomizu University's students in Rikuzentakata-City. Iwate Prefecture, Japan. The American Association of Geographers 2015 Annual Meeting. Chicago. (2015/4/22)

Kumagai, K. Can *wantok* networks be Counter-publics?: Development and public space in urban Papua New Guinea. University of Papua New Guinea. Port Moresby. (2015/8/4)

Oshiro, Naoki Poetics of Signs: Reading "Fen-shui" (geomancy) landscapes in Ryukyu-Okinawa Islands. International Geographical Congress. Koeln

Fukuda, Tamami 「家庭的なるもの」の文化地理—公的領域における家族像の配置と流通を手掛かりに. 2012年11月17日人文地理学会(招待講演)立命館大学

[図書](計30件)

Kumagai, K. and Yoshida, Y. eds. 2014. *Building global networks through local sensitivities: Japanese researchers' contribution to gender and geography.* Tokyo: Ochanomizu University.

森 正人 (2014) 『英国風景の変貌』里文出版.

ドリーン・マッシー著 森 正人訳(2014) 『空間のために』月曜社.

森本 泉 (2012) 『ネパールにおけるツーリズム空間の創出 カトマンドウから描く地域像』古今書院.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

熊谷 圭知 (Kumagai, Keichi)
(お茶の水女子大学・基幹研究院・教授)
研究者番号: 80153344

(2) 研究分担者

石塚 道子 (Ishizuka, Michiko)
(お茶の水女子大学・名誉教授)
研究者番号: 20149553

大城 直樹 (Oshiro, Naoki)
(明治大学・文学部・教授)
研究者番号: 00274407

福田 珠己 (Fukuda, Tamami)
(大阪府立大学・人間科学部・教授)
研究者番号: 80285311

森本 泉 (Morimoto, Izumi)
(明治学院大学・国際学部・教授)
研究者番号: 20339576

森 正人 (Mori, Masato)
(三重大学・人文学部・准教授)
研究者番号: 10372541

寄藤 晶子 (Yorifuji, Akiko)
(福岡女学院大学・人文学部・准教授)
研究者番号: 80440551

倉光 ミナ子 (Kuramitsu, Minako)
(天理大学・国際学部・准教授)
研究者番号: 10361817

関村 オリ工 (Sekimura, Ori)
(群馬県立女子大学・文学部・専任講師)
研究者番号：70572478